

平成27年度 第1回大阪府依存症対策推進協議会 議事概要

◇日時：平成27年5月20日（月）午後3時～5時

◇場所：大阪府立精神医療センター 本館棟3階 大会議室

◇出席者：出席15名

開 会

(1) 委員自己紹介

(2) 会長の選出について

籠本委員を本協議会の会長として選任

協議・意見交換

(1) 平成27年度事業計画（案）及び事業指標（案）について【資料1】

主 旨

事務局にて、平成27年度事業計画（案）及び事業指標（案）を策定したので、検討いただきたい。

協議における主な意見

- ◇ 26年度に実施した関係機関、関係団体等へのヒアリング内容を協議会で共有してもらいたい。
- ◇ 保護観察所で対応されている依存症に関する相談件数、依存症者の総数を共有してもらいたい。
- ◇ 事業終了後の体制を見据えて、ネットワークの拡大、顔の見える関係作りがポイントとなる。大阪府警、近畿厚生局、弁護士会、司法書士会、大阪いちょうの会を協議会の委員に加えてはどうか。

協議会の意見

平成27年度事業計画（案）及び事業指標（案）については、本日の意見等を盛り込んで加筆修正することとし、承認。

(2) 大阪アディクションセンター（OAC）の展開について【資料2】

主 旨

大阪アディクションセンター（OAC）については、協議会の委員が参加している機関、団体等全てをひとつの大きな組織として考えていきたいという方向性が26年度の協議会の中ででていた。

前例のない組織なので、ゆるやかではあるが、ある程度かつりとした組織体制にしたいと考えている。具体的には、相互連携を深めることで、支援を必要とする人に迅速にサポートを提供する体制を目指すと共に、継続的、自律的に依存症者支援の裾野を広げていくことができる体制にしたいと考えている。

事業終了後にOACがスムーズにスタートできるように、OACの組織作りの注意点や、どこに力を注げば効果的かということに関して、ご意見をいただきたい。

協議における主な意見

- ◇ アルコール依存症支援のネットワークを参考にOACの組織体制を検討してはいかがか。
- ◇ OACは多機関、多団体、多職種のネットワークなので、行政機関にリードしていただきたい。
- ◇ 協議会、OACに司法関係者が入ると、依存症者は相談を躊躇する可能性が高い。相談は匿名性が重要である。
- ◇ 司法関係者に協議会、OACに入ってもらうことで、事例検討、相互連携等を行っていく上で、直接、意見交換をできるというメリットは大きいと思われる。事例検討等を実施する場合は、匿名で行うようにしたい。
- ◇ 各機関の担当者間の意思疎通、交流が希薄化している。職員交流や研修の企画運営をOACが担っていくこととしてはいかがか。
- ◇ 関係機関職員は、依存症相談の基本的な知識、ノウハウを学ぶ機会がないことが、連携の悪さにつながっている。そこを解消するためのアイデアをいただきたい。
- ◇ 関係機関・団体の場所、支援内容、サービス内容といった情報が共有できていない。今年度からできる部分は行いながら、将来的にはOACで一元管理して情報発信してはいかがか。
- ◇ 事業終了後にOACの事業費、を構成メンバーで分担して負担するのは難しいと思われる。専門性を持った機関、団体等の集まりなので、役割分担をすることで、コストを抑えることができるのではないか。
- ◇ OACの情報交換をスムーズに、できればリアルタイムで実施できるように、登録制のメーリングリスト、もしくはSNSを立ち上げて、具体化していきたい。ただし、どこが管理運営を行うかについては、議論の余地があると思われる。
- ◇ 大阪アディクションセンター（OAC）という名称では、精神医療センターが全てを担うような印象があるが、図を見るとネットワークである。もう少し適した名称があるのではないか。
- ◇ 大阪アディクションセンター（OAC）という名称では、組織構成、位置付け、機能等をイメージしにくいのは重々承知している。しかし、かつちりとしたとした組織であることを明確に意識してもらうために、名称を大阪アディクションセンター（OAC）とした経緯がある。ただ、精神医療センターが全てを担うわけではないので、OACの組織構成、位置付け、事業展開等を整理し、誤解なく簡潔に説明できるようにした上で、打ち出していきたい。
- ◇ 依存症は、一般的に疾病として認知されていないことが大きな課題である。その認識を根底から変えていくような取り組みをお願いしたい。
- ◇ 海外では回復支援をビジネス化したような高額な利用料のかかる依存症回復施設が増加している。日本でもこのような問題が発生する可能性があるということを想定して対策を立てる必要がある。
- ◇ 最近日本に入ってきたソーシャルカジノについては依存症と親和性も高いため、注視していく必要があるのでは。

協議会の意見

大阪アディクションセンター（OAC）については、本協議会を持って、立ち上げたこととする。本事業を実施していく中で、OACの組織体制、機能等を整理していくこととし、承認。